

ま え が き

徳島県中学校教育研究会数学部会の会員の先生方におかれましては、「意欲を高め、豊かな学びを創造する数学教育」の研究主題のもと、日々の授業実践を積み重ねてこられましたことに心から感謝と敬意を表します。

昨年12月に、経済協力開発機構(OECD)の65カ国・地域の15歳約47万人が参加した「生徒の学習到達度調査」(PISA)の実施結果が発表されました。それによると「日本は『文章やグラフの内容を読み取る読解力』『科学的応用力』『数学的応用力』全てにおいて上昇傾向にあり、調査開始後、続いていた学力低下に歯止めがかかり、改善傾向が示された。」と報道されました。しかし、これに安堵することなく、我々数学教師はさらなる基礎学力の定着に向けた取り組みと、学んだ知識や技能を活用して課題を解決する力を育成することが重要となります。新学習指導要領における数学科の改善の基本方針は、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、数学的な思考力・表現力を育み、学ぶ意欲を高めるようにすることです。我々の日々の授業実践で、豊かな知識・技能に基づき、自ら課題を見だし解決するために思考する力、自らの思考の過程や結果を数学を用いて表現する力、及び数学を日常生活、社会、学習の中で活用する力を培い、「知識基盤社会」と言われる時代を力強く生き抜く生徒を育成することが求められていると思っています。

そこで、本研究委員会では、「意欲を高め、豊かな学びを創造する数学教育(実践事例)」を研究テーマとし、ステップアップテストの結果から明らかになった課題の解決に繋がるような実践研究を進め、その成果をまとめました。実践事例には、自らが作成した指導案で実際に授業を行い、その時に使ったワークシートや子どもたちが実際に書き込んだシート、授業後の考察も掲載しました。

本誌に掲載された実践事例をそれぞれの先生方に参考にしていただき、学級の生徒の実態等にあったものと工夫・改善していただくことにより、研究したことが共有化され意味を持つてくるものだと思います。

本誌は各郡市の研究委員の先生方のご協力により、研究・編集されました。この研究誌を先生方の日々の授業実践に活用していただくことで、本県中学生の数学力向上に繋がればこれ以上のことはございません。

終わりにになりましたが、本誌編集にご尽力いただきました研究委員の先生方、事務局の先生方に厚くお礼を申し上げ、発刊によせる言葉といたします。

平成23年4月

徳島県中学校教育研究会数学部会
会長 土佐 敏 彰

目 次

(第1学年)

1	方程式の利用	富岡東中学校	山田 孝志	1
2	比例と反比例	海南中学校	山村 美奈	4
3	比例と反比例	上板中学校	梯 泰三	8
4	比例・反比例	小松島中学校	藪下 和仁	12
5	平面図形	入田中学校	篠原 光代	16

(第2学年)

6	文字式の利用	城西中学校	立山 一郎	21
7	連立方程式	富田中学校	細木 香	26
8	一次関数の利用	北灘中学校	森本 千晶	30
9	一次関数と方程式	西祖谷中学校	坂東 哲弥	34
10	平行と合同	貞光中学校	平田 京子	37
11	場合の数と確率	上勝中学校	笠江 由美	41

(第3学年)

12	二次方程式	土成中学校	岸田 恭子	45
13	関数 $y = ax^2$	神山東中学校	小林加代子	51
14	図形と相似	鴨島東中学校	重本佐代子	55
15	三平方の定理	不動中学校	鎌田 明宏	61
16	標本調査	木頭中学校	野本 裕章	65